



THE MAUREEN AND MIKE MANSFIELD FOUNDATION

**現代日米ビジョンの構築：
進化と繁栄を共有するためのマンスフィールド財団タスクフォース
「日米ビジョン」の発表・公開セミナー in 名古屋**

2012年春、日本からワシントンDCへの桜寄贈100周年を迎えました。日米関係にとってこの重要な時点を記念し、モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団は、ワシントン日本商工会とニューヨーク日本商工会議所から支援を受け、「マンスフィールド財団タスクフォース：進化と繁栄を共有するための現代日米ビジョンの構築」を結成いたしました。

2012年秋、民間セクター、学術部門、政府から9人の日本専門家から成るタスクフォースは、今後の日米二国間関係についての構想(ビジョン)を纏め、発表いたします。そしてトーマス・シーファー前米国駐日大使を含むタスクフォースの一行は、日本の6地方都市を巡り、各地の主要なステイクホルダーと共に、タスクフォースが掲げる構想(ビジョン)について討論いたします。シンポジウムにおいては、人材交流への投資拡大、共通の経済課題、地域の成長と安定のエンジンとしての貿易促進における日米協力、地球規模課題に対する二国間アプローチについて等、様々な日米協力についてのテーマを取り上げます。アメリカの日本専門家のオピニオンを聞く貴重なチャンスですので、ご関心のある方は是非ご参加下さい。

日時：2012年 12月3日(月) 15:00-17:00

**会場：名古屋大学東山キャンパス 環境総合館1F レクチャーホール
名古屋市中種区不老町D2-2(510)**

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/contact/map.html>

定員 100名(申し込み先着順)

参加費無料、日英同時通訳付

主催：モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団

共催：名古屋大学

協賛：ワシントン日本商工会、ニューヨーク日本商工会議所

協力：名古屋米国領事館

※参加される方は<intl@post.jimu.nagoya-u.ac.jp>まで事前に①名前 ②所属 ③連絡先を明記の上ご登録ください。

お問い合わせ：マンスフィールド財団 TEL:03-5403-7228

プログラム

15:00-15:05	開会挨拶 鮎京正訓 名古屋大学理事・副総長
15:05-15:15	プロジェクトの概要の説明 L・ゴードン・フレイク マンスフィールド財団所長、タスクフォース議長
15:15-16:00	タスクフォースからの提言 <ul style="list-style-type: none">• デービッド・ボーリング マンスフィールド財団 「日本：3つの考え」• ロバート・ペッカネン ワシントン大学 「人材交流と日米関係」• 清水薫 コロンビア大学 「中国のエンゲージメントによる日米関係の強化」• ミレヤ・ソーリス ブルッキングス研究所、アメリカン大学 「変わる日本：日米経済協力拡大に向けて」
16:00-16:20	コメント 三浦聡 名古屋大学大学院法学研究科教授
16:20-16:35	コメント、感想 J・トーマス・シーファー 前米国駐日大使、マンスフィールド財団理事 タスクフォース上級諮問委員
16:35-16:55	質疑応答
16:55-17:00	閉会挨拶 L・ゴードン・フレイク

タスクフォースメンバー



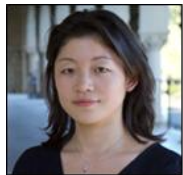
デービット・ボーリング モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団副所長

モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団副所長を務め、米国議会が創設した中堅の米国連邦政府職員向けの日米政府間交流事業であるマンズフィールドフェロースHIP・プログラムのディレクター。米国司法省反トラスト部で弁護士を務め、マンズフィールドフェローの第5期生(1999~2001年)となる。財団では、米国の若手日本専門家を育成することを目的として2009年に創設された「日米次世代を担うネットワーク」プログラムも管理・統括している。



ロバート・ベッカネン ワシントン大学准教授
日本研究プログラム代表

ワシントン大学ヘンリー・M・ジャクソン国際研究大学院准教授及び日本研究プログラム代表。現在、筑波大学准教授。近年の研究対象は市民社会、日本の町内会、日本の政党政治と立法機関、政党比較と立法機関など多岐にわたる。ハーバード大学で政治学の博士号を取得。



清水 薫 コロンビア大学政治学部 ウェザーヘッド東アジア研究所助教授

近年の研究対象は、日本及び中華圏の政治経済で、特に中央と地方の財政関係と財政政策に焦点を当てる。学習院大学と経済産業研究所でリサーチ・スカラーを務める。2009年から2010年までハーバード大学の日米関係に関するウェザーヘッドセンター国際関係プログラムで上級研究員を務める。スタンフォード大学にて経済学と国際関係の学士号取得、同大学で政治学の博士号取得。



ミレヤ・ソーリス ブルッキングス研究所北東アジア政策研究センター シニアフェロー/
日本研究チェア、アメリカン大学准教授

研究対象は国際比較政治経済、日本政治と外交政策、北アメリカ及び東アジアの地域統合。日米関係について数多くの著作を発表し、高く評価されている。日本ビジネス研究会ヤングスカラー賞受賞、フルブライト財団、フォード財団のスカラシップを獲得。ハーバード大学にて政治学の博士号取得。

コメンテーター

三浦聡 名古屋大学大学院法学研究科教授

東洋大学経済学部国際経済学科専任講師、准教授を経て、現職。専門分野は国際政治学、研究テーマはグローバル・ガバナンス論。日本国際政治学会、American Political Science Association等に所属。主な著作に、「人権」山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年、「Heterarchy” and ”Hierarchy,” in Mark Bevir, ed., Encyclopedia of Governance (Sage, 2007) などがある。

議長



L・ゴードン・フレイク モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団 所長

1999年2月、モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団所長就任。前職として、韓国経済研究所研究調査部長、大西洋評議会紛争解決プログラム上席研究員/アソシエイトディレクター。米国の北朝鮮人権委員会および韓国経済研究所諮問委員会のメンバーであると同時に、ロンドンにある国際戦略研究所(IISS)のメンバーであり、アジア太平洋安全保障協力会議米国会委員(USCSCAP)の委員を務める。

上級諮問委員



J・トーマス・シーファー 前米国駐日大使、マンズフィールド財団理事

2005年から2009年まで駐日米国大使を務める。東京での任期中、1960年の日米安全保障条約締結から続く日米同盟の再編交渉に携わった。2009年には、日米同盟の強化促進への功績を称えられ、米国防総省から文民に与えられる最高の栄誉である「パブリック・サービス・アワード」を受賞した。外交でのキャリアは2001年、駐豪米国大使就任に遡る。外交入りまでは、投資家としてテキサス・レンジャーズ・ベースボールクラブの買収に関わり、8年間チームの会長を務めた。また、テキサス州議会下院議員を3期務め、多くの政治キャンペーンに積極的に参加するなど、テキサス州の政治に長年携わってきた。現在は、アメリカやアジアでのビジネスに関わる個人、企業、スポーツリーグへの数々のコンサルティングやマネジメントサービスを提供。テキサス大学で学士号、修士号を取得。法律を専攻。